



明化の教育

7月号② (第402号)
平成25年7月19日
文京区立明化小学校
校長 水野 久美恵

はじめての魚沼移動教室

6年 泉 宜宏



「大江湿原に出たときは、まわりがパッと明るくなり、すごくきれいでした。」

「お花畑に出たときは、ドアがやっと開いたように視界が広がりました。」

子供たちの感想の一部です。沼山峠を越えて大江湿原に出ると一気に眺望が開けます。はるか彼方まで木道が続き、空も広がっています。レンゲツツジやニッコウキスゲも咲

いています。奥只見湖から遊覧船にバス、徒歩とつないで3時間あまり、一汗もふた汗もかいたあとだけに感動も大きかったのです。

今年度から新しく始まった魚沼移動教室です。3泊4日となり、宿泊日数も一日増えました。魚沼市の皆さんの協力も得て、奥只見ダム地下発電所見学、尾瀬沼ハイキング、银山平キャンプ場での飯盒炊さん、笹団子作り、中越地震に学ぶ防災学習、JAの雪室貯蔵施設見学と充実した内容でした。

子供たちは4日間の宿泊学習のなかで、身の自立と仲間と協力し合うことの大切さを学びました。生活の場面ごとに自分の荷物を整理し、「移動教室のしおり」をもとに次の準備をすることが、集合や整列などの5分前行動につながりました。集団生活の中では、ときには我慢することも必要で、それによって、自分を抑えながら仲間と力を合わせていくことの大切さを学びました。3日目の飯盒炊さんは子供たちが、まさに力を合わせて一つのことをやり遂げた場面でした。初めて火起こしに挑戦した子供たちも多く、あれこれと試行錯誤しながらみんな必死でした。ご飯がうまく炊けなかったり、カレーがスープカレーのようになっていたりした班もありましたが、「いただきます。」と声を合わせたときの満足した顔が印象的でした。帰りのバスの中で4日間を振り返っての感想発表では、尾瀬沼ハイキングに次いで「みんなで力を合わせてやりとげた飯盒炊さん」の感想を発表する子供がたくさんいました。

6年生は魚沼移動教室に続いて岩井臨海学校に取り組みます。小学校生活最後の宿泊行事です。今までに身に付けてきた力を発揮してほしいと思います。2学期の運動会、そして学芸会と、子供たちが高め合いながら成長していけるように担任は励ましていこうと思います。

わたすげや湿原の爽風子らを連れ (水野久美恵 校長)

夢描くぶなの木肌に頬よせて (泉 宜宏)

初夏の子ら泳ぐ岩魚に乗り出して (安井沙佑里)